

平成 17 年 8 月 28 日

## 署名文書についての詳細説明資料

### 大井川河口へ世界最大級の産業廃棄物及び一般廃棄物焼却処理施設建設計画を、白紙に戻し、ゼロから住民と共同でやり直すことを求める署名

飯淵の環境を考える会 代表 小澤 昭雄

#### < 前文 >

私たちは、大井川河口野鳥公園に隣接する 3.1ha のエコタウンリサイクル施設計画地への世界最大級の産業廃棄物及び一般廃棄物焼却処理施設の建設計画及び民設 / 民営事業計画を、白紙に戻し、計画及び準備作業をゼロから住民と共同で再スタートすることを強く求めます。

この地域は駿河湾 4 大河川水系のひとつ大井川の河口にあり、大井川から注ぐ豊かな水量と温暖な気候によって特別な生態系は無いものの豊かな自然に恵まれ、四季を通じて多くの釣り客が家族ずれで釣りを楽しみ、河口の浅瀬や野鳥公園を中心に渡り鳥が羽根を休める自然観察のメッカでもあります。

野鳥公園からは人工の建物の無い松林が連なりその向こうに富士山が四季さまざまな姿を見せてくれます。

また、駿河湾といえば「桜海老」、また豊かな自然の象徴としての大井川ブランド「しらす」は名産品として全国的に知られており、自然が、大井川が地元を守り育ててくれている土地柄です。

#### < 「確約書」の存在と町行政の約束が一方的にホゴにされた いきさつ >

この豊かな自然の中、飯淵地区住民は昭和 53 年にめいわく施設のし尿処理場を苦渋の決断で受け入れ、以来 30 年弱の間、大井川町の行政及び町民に対し大きな役割を果たしてきました。この建設には 3 年間 50 回の会合と時間をかけて、大井川町のためにと住民みんなで相談し、納得ずくで受け入れました。

それゆえ、当時の大井川町長と飯淵の区長は互いの誠意を「確約書」で取り交わし、最低条件として飯淵の住民に未来永劫これ以上のめいわくはかけてはいけないと互いに約束する為に、「今後飯淵区へは環境衛生施設は絶対に設けないこと。」と明文化し、署名捺印し、議会も最大級の恩返しを約束しました。

ところが、現大井川町行政は、平成 16 年 6 月突然住民に何の相談もなく、計画をすり替え、産業廃棄物及び一般廃棄物焼却処理施設計画（静岡県ゼロエミッション事業）推進を始めました。

（説明会、見学会だけで）

環境衛生施設であり、規模は現在の処理施設高柳清掃工場 255 トン/日の 4 倍に当たる 1050 トン/日、4 つの複合施設で家庭ごみ、産業ゴミ、さらに前代未聞である県内全域の最終処分場を掘り起こしてダンプカーのような車両で運び、規制や分別収集が行われなかった昔のゴミを燃やそうというものです。ダイオキシン、アスベストに代表される有害物質については日本の基準値は世界的なレベルには追いついていません。事故トラブルが毎年発生し技術的にも未成熟なゴミ焼却処理技術なのに、世界的に例の無い 4 タイプ集合型の民間施設を大規模に一挙に建設し、自治体の役目のゴミ処理を民営で 20 年の間 排煙と 800 トンの処理水を毎日 24 時間駿河湾に放出し続けるマンモス工場なのです。

(環境影響評価方法書では何の断りもなく排水量を更に増やして最大 1200 トン/日と増量して既成事実にした。)

多くの飯淵の住民は町との未来永久のこの「確約書」があるので、まさか町行政が約束を破ることはないだろうと信頼し、ある大井川町議会議員が行ったアンケートによって疑問を持ったが強い意見は差し控えていました。

このことについて、最も敏感に反応した建設予定地直近400メートルの飯淵浜住民は平成16年7月から同年12月に大多数の反対署名運動を行って、大井川町長に提出しましたが平成17年7月末現在何の誠意も回答も大井川町長から返ってきていません。

当初から大井川町側から住民へは「住民の理解と協力が最も大切なことと考えている・・・」としており、し尿処理場建設の際のように住民合意を形成する為に粉骨砕身、誠意の限りを尽くして住民との話し合いを行うものとみんなが確信しておりました。自治会でもその様に説明を繰り返していたので、これから事業者3者の十分な説明と、みんなでの相談を1、2年やることになると思っていました。

#### <基本協定調印を住民合意なしで強行した いきさつ>

にもかかわらず、事業者3者(県、町、タクマ)にとって平成17年度の事業推進のための重要な手続き「基本協定」締結をするために開催した事業計画説明会(平成17年1月22~23日)の開催直後(1月25日)に協定締結をすると言って事業の内容の理解や事業計画がどんなものか検討する時間を与えないというのです。

当然、説明会の席上で出席者多数の要望が噴出したため、事業3者は期限を決めずに延期としてその場は譲歩して、ノーマルな行政の立場を取り戻したかに見えました。

しかし、町長、助役、議長、他が異例の出席をして翌月2月12日飯淵地区の唯一の議決機関である組長会を緊急招集し、先に議決した「3月5日までに組内で相談して持ち寄る」という組長会決定と、16名の組長の大多数の反対を無視して、平成17年2月15日基本協定締結を強行してしまい、全ての手続きを開始させたのです。

#### <環境アセスメントを強行したいいきさつ>

さらに、平成17年6月3、5日の説明会では、「この説明会を開催すること自体が環境アセスメントの手続きをスタートさせることであれば、住民合意がなされていない現在、開催自体が無効ではないか」との住民の声に答えて、15回以上「環境アセスメントを始める為の説明会ではなく、どのような内容であるかを知ってもらうための説明会です」と町側は会の主旨の理解を求めるといふ異例の状況の中で説明が行われました。

しかし案の定、開始に関して何の会議も開かれることなく平成17年6月20日、行政から7月2日~8月1日に方法書の縦覧を行う旨の通達のみで7月2日から環境アセスメント方法書の縦覧を公然と既成事実を進める強引な行動を取るにいたってきました。既に方法書の縦覧を終わり、意見書を取りまとめる段階へと入ってしまいました。

環境アセスメント(通称アセス)とは今の環境を、基準以内の環境(公害の発生する川崎や四日市などの環境)にすっぽり置き換えても、人体に与える影響はありませんということを証明するための事業者を正当化するための調査で、住民の生命や健康を守る為の手続きではありません。また住民の意見は参考としか扱われず、法律で決まっているスケジュールによってブレーキの効かない弾丸列車が終点に突っ込むように止める事の出来ない手続きです。

清水市のごみ焼却施設が中止になったのは、合併で静岡新市から静岡の施設で処理でき、不要になったとの中止報告で、住民運動の結果ではないと言われています。

つまり、環境が汚れても四日市と同じ基準内であり影響は少ないと報告され、今私たちが胸いっぱい吸っている無害でおいしい空気やおいしい食べ物は2度と手に入らなくなるということになるうと思われま

す。大井川町行政のやり方は、説明責任も取らず、民主主義のルールも住民も無視し、さらに「確約書」すら無視し、目的の為には手段を選ばない、住民など眼中に無いとばかりの態度はさらに嵩が

<住民を無視して進めてきた結果について>

以上のように、大井川町行政は「住民の理解と協力が不可欠である」=住民合意 と言いながら、住民の意向や理解を具体的な形(町内会や組の集まり)で得ようと言う努力さえしないので半数の有権者である女性のなかには、全く何がどうなっているのか分からない方さえいるのが実態です。環境衛生施設に対して常識的にはありえない幻の住民を作り上げ、静岡県や民間事業者にはまるで住民は拍手かっさい、大喜びで「是非つくって欲しい」と言っているように報告し続けてきたために、7月23日のお祭り会場で石川県知事は大失言をしてしまいました。

「皆さんの理解協力をいただき、5年後には・・・」と町の作った情報を住民の総意と錯覚してしま

ったのです。石川県知事は「地元住民のみなさんが本当に賛同してくれるなら・・・」と住民の理解を大前提にしている方です。

また8月2日公正取引委員会は選定事業者であるタクマ、クボタなど16社を談合疑惑で立入り調査をしました。

<私たちがあえて行動を開始したわけ>

これに対して大多数の住民は慎重な態度でかつての実直な町行政を期待し、信頼して、自治会の顔を立て、反対と言う行動をとらずに、事態を見守ってきました。ごみ問題で議論のあった地域などの人たちには「おかしい、異常だ、反対運動をすべきだ」などと意見をされることもありましたが、一方おとなの対応と評されてもいます。

- 1、「確約書」で契約した約束をお互いに守ること。
- 2、全住民の総意でこの事業を受け入れるかどうか自治会が音頭を取って決めていく。
- 3、施設の建設計画、事業計画、また県や町の行政がこの事業を進める為に行う環境政策、道路などの建設計画など施設だけでなく全ての情報を提示するなかで、住民の知恵や意思を広く集め参画を求めていわゆるコラボレーション（協創＝協奏）を行っていきこう。そのためには、住民はしろうつとなので時間をかけて理解して行きたいので協力して欲しいと誠実な提案を続けてきました。

住民の生命、健康、にとって今のままが維持できるのか。

何をどんなことを我慢しなければならないのか。

飯淵以外の大井川町の町民や県内の県民、水産業に方々に飯淵のせいでめいわくをかけることにならないか。

大井川町の10年後、100年後にとってほんとうにいいのか。など等

住民として町や県といっしょにいていねいに問題解決をしなければならないことは山ほどあるのですから。

しかし、環境アセスメントの縦覧が開始され、弾丸列車が走り出そうとしている今、町行政がおとなしくしている飯淵の住民に対して誠実に対応せず、口先だけで安心安全セレモニーを繰り返すだけで、慎重派の住民の期待や信頼に応える意思はないという状況を目の前にするに至っては、自分たちのことは自分たちで解決し、飯淵の民主主義と他の地区から尊敬される住民の未来を作る行動に切り替えざるをえない段階が来たと判断しました。

また、私たちはこの問題を飯淵地区と地蔵森の住民だけで決めることの出来るものとは考えられません。ゴミの運搬路を取り上げただけでも、大井川町全域、吉田町に影響のあることと推定しております。排煙はダイオキシンに代表される有害物質が基準の半分といわれている量で確実に風に乗って拡散しますが、その影響を受ける地域は飯淵だけと断定できるものはこの世に居りません。排水1200トンの中にも同様な有害物質が含まれて、排煙と同様でどの範囲へどのように生態系や漁業資源へ影響するのかも本当のところは誰も分かりません。

そう考えると、この静岡県ゼロエミッション事業について世の中に広く知っていただき、飯淵住民へのアドバイスをいただかなければ済まないことと考えております。